平成２５年度しおあなの森保育園　事業報告

　民営化２年目の２５年度は工事も終わり、子どもたちとの生活では落ち着いた日々が続いた。

保護者会の事では、『協力』の内容が園と保護者の間で異なり、話し合いも実施したが、７月には役員会で解散を決めた。

園からの連絡や行事、時々の保育をホームページでお知らせするようにした。

**１．保育について**

　２年目は子どもの気持ちや主体性を育て尊重することを大切に保育を積み重ねることをめざした。

菜園を使用しての保育が日常的に実施されるようになった。失敗から学ぶことも大切にし、子どもたちの考えを取り入れた取り組みなどは全体としては、１年目の保育実践より深まってきたと言える。また、クッキングと繋げて取り組めるようになった。

　年長児の保育では、お話ボランティアの方に月１回来ていただいた。その方々が感心するくらい、子どもたちは多くのお話を知っていて、集中して聴くことができた。

また、つくってあそぼう会における制作活動(須磨の海浜水族園)などでは大人が感動するくらい良く観察した作品を作り上げていた。このことから、遠足の目的地では、日常生活では経験できないことが経験できるところを選ぶことの大切さを改めて感じた。

　運動場の遊具として導入が遅れていたのぼり棒と雲梯をようやく設置した。冬場であったが子どもたちは毎日のように挑戦し、ほとんどの子どもは雲梯ができるようになって自信をつけて卒園していった。年長児の姿を見て４歳児もよく挑戦している。

しかし、保育士の対応では、全体として、毎日の生活で子どもの気持ちや意見を尊重して進める事が適切にできていないことも時々あり、保育士の思いで一斉に子どもを動かしてしまったり、大きな声で指示する場面も見られた。引き続きの課題である。

肢体不自由を伴った障がい児を２人受け入れた。エレベーターの利用なども考えたが、リハビリも兼ねて階段を使用することになった。他の子どもたちは、その子たちの前向きな挑戦する姿から、様々な場面で『あきらめずにやればできる』ということを学んだ。

保育士の定着率は良く、退職は、年度途中の病気退職１名、結婚による転居で１人、任期満了で１人だった。

年間の延べ保育対象児童数は1,922人で月平均160人(定員１５０名)であった。ちなみに昨年度は月平均170人だった。

**２．延長保育の利用について**

　年間で延べ774人で、昨年の650人を上回った。19時を超える利用も時々あった。

**３．一時預かり**

年間の利用件数は２０３件で昨年の１２８件を大きく上回った。他園で受け入れが少ない４．５月も積極的に受け入れた。年間通して毎週１回利用された姉妹が今年の入園につながった。障害を持った子どもも預かった。

**４．子育て支援**

　園庭開放(毎週水曜日の午前)には年間通してよく参加され、参加者０は２回で雨の時だった。多い時は親子で４５人(やきいも大会)が参加されたこともあった。午後に運動場で自由に遊べる園庭開放もコンスタントに利用がある。一方、サークルを作って利用する子育て支援室の利用は少なかった。

**５．交流保育について**

２５年度から、敬老の日の前週に入園児のおじいちゃんやおばあちゃんを招待して、歌や踊り、手遊びなどを披露した。その後、一緒にゲームや食事をした。初めての試みであったが、喜んでいただけた。堺老人福祉センターや愛らいふ、雅老園の訪問なども実施した。

　陵西・大浜中学校の職業体験学習や保育実習を受け、生徒たちは保育士の仕事の大変さと大切さを学んでくれた。生徒たちが「意外だった」と言ったことは、体力のいる仕事であることがわかったことだった。将来は保育士になりたいという生徒も出てきたことはうれしい。大仙・大仙西小学校の保育体験は昨年に引き続き実施し、好評である。

耳原病院の小児科の研修医が健康な小児を見る為に３日間の日程で実習に来られた。大変よく子どもと関わって頂き、春の遠足の際には、ありがたかった。

園からは大仙西小学校の西の子まつりの参加や入学前の小学校見学(新湊と大仙西)をおこなった。共愛保育所とは５歳児を中心に交流し、行く学校が一緒の子を見つけ、友だちができたと喜ぶ子もいた。

**６．研修ついて**

　市が主催する研修、府の委託を受けた研修、民間保育園保育士会や府の社協が実施する研修などを保育士を中心に受講した。特に市のアカデミー研修と社協が実施する乳児ゼミは各一名が連続して受講し、その人たちを職場の講師にして職場研修できるようにした。人権研修は法人と保育園の２回実施した。また、心肺蘇生法は２５年度も全職員が実地研修をした。